

事業報告

（ 自 平成 24 年 4 月 1 日
至 平成 25 年 3 月 31 日 ）

1. 会社の現況に関する事項

（1）事業の経過及びその成果

当該事業年度におけるわが国の経済は、年度前半は東日本大震災の復興需要で東北地方の景況感に改善がみられたものの、欧州政府債務危機の影響による世界経済の減速と円高を背景に、国内輸出産業の業績低迷が固定化し、デフレ不況が続きました。その後、12月に発足した第二次安倍内閣が推進するアベノミクスと称される経済政策と、これに歩調を合わせて発表された日銀の金融政策が市場に評価され、景気回復への期待を先取りする形で円高修正が進み、株価も回復し始めるなど、年度後半にむけて景気持ち直しの動きがみられるようになりました。

北海道経済は、年度前半に北海道新幹線の札幌延伸着工決定などの明るい話題はありましたが、国と同様にデフレ不況に加え、記録的な天候不順に見舞われ、景気は全般的に弱含みとなりました。しかし年度後半からの株高を背景に、百貨店の高額商品に売上回復の動きがみられるなど消費マインドも改善傾向にあり、観光でも、円安やLCC効果によって、東南アジアを中心とする海外客及び道外客の増加で、明るい兆しがみられるようになりました。

このような状況の下、さっぽろ地下街では、12月1日から市営交通乗車券 IC カード「SAPICA（サピカ）」を利用した決済を開始し、お客様サービスの充実に努めました。また、札幌地下街商店会では「もっとちかくに」を年間コンセプトにした各種催事の実施と、さっぽろ地下街 POINT CLUB の会員向けインセンティブ等で、お買物の動機付けに努めました。その結果、さっぽろ地下街の平成 24 年度売上は、天候不順等で衣料品が苦戦を強いられたものの、13,245 百万円（前年比 99.9%）とほぼ前年並みの売上を確保致しました。

当事業年度における当社の事業状況は、老朽化に伴う設備更新として、開業以降初めてとなる大規模改修工事に着手致しました。損益については、売上面で改修工事の影響が大きく駐車場売上が前年比 87.2%となる等、1,900 百万円（前事業年度対比 96.0%）になりましたが、費用面では、維持管理費及び販管費等の削減で、売上減収を上回る節減が図られ、営業利益は 162 百万円（同 105.4%）、経常利益は 176 百万円（同 104.5%）の減収増益となりました。なお、特別損失として、地下駐車場改修工事等に伴う固定資産除去損 51 百万円を計上した結果、当期純利益は 73 百万円（同 94.4%）と若干の減益となりましたが、今期の配当につきましては、昨年同様、一株当たり 30 円（年 6%）を維持することにしております。

(2) 対処すべき課題

大通地区では、大通交流拠点地下広場の整備、路面電車の路線ループ化と狸小路近辺の停留場の新設、地下街接続ビルの建て替え等の再開発計画によって将来的な集客が期待される一方、平成 26 年に予定されている消費税増税を見据え、さっぽろ地下街が引き続きお客様から支持される商業施設であるために、一層の安全安心と快適環境の整備を目標に、平成 25 年度は前年度同様に、老朽化した設備改修に取り組んで参ります。具体的にはオーロラタウン店舗空調設備改修工事、電気設備・衛生設備改修工事、階段上屋改修工事、耐震改修工事を実施するほか、ポールタウンの設備改修基本設計に着手致します。

(3) 資金調達等の状況

大通地下駐車場改修工事、オーロラタウン衛生設備、電気設備、熱源設備、店舗空調設備大規模改修工事、オーロラタウン耐震改修工事等の設備改修費用に充てるため、当期において 835 百万円を銀行借入にて調達いたしました。

(4) 設備投資の状況

当期における設備投資の総額は 936 百万円です。主なものでは、大通地下駐車場大規模改修工事 331 百万円、電気設備工事 241 百万円、衛生設備改修工事 274 百万円を実施致しました。

(5) 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況

区分	第 41 期 (平成 21 年度)	第 42 期 (平成 22 年度)	第 43 期 (平成 23 年度)	第 44 期 (当事業年度)
売上高	2,013 百万円	2,010 百万円	1,978 百万円	1,900 百万円
経常損益	84 百万円	156 百万円	168 百万円	176 百万円
当期純損益	39 百万円	84 百万円	77 百万円	73 百万円
一株当たり当期純損益	37 円 67 銭	80 円 84 銭	74 円 65 銭	70 円 50 銭
総資産	5,792 百万円	5,642 百万円	5,578 百万円	6,931 百万円

(6) 主な事業内容

地下通路の管理、及び地下通路に付帯する店舗等の管理・賃貸をいたしております。

(7) 主要な営業所

本 社 札幌市中央区南 2 条東 1 丁目 1 番地 14

オーロラタウン 札幌市中央区大通西 1~3 丁目 (33,645 m²、地下駐車場 15,149 m²含む)

ポールタウン 札幌市中央区南 1~4 条西 3~4 丁目 (14,230 m²)

(8) 使用人の状況

使用人数	対前期比増減	平均年齢	平均勤続年数
51 名	2 名増	46.0 歳	4.6 年

※使用人数は正社員、契約社員、および嘱託社員です。

(9) 主要な借入先及び借入額

借入先	借入額（対前期比増減）
株式会社日本政策投資銀行	241 百万円（196 百万円増）
株式会社北洋銀行	416 百万円（416 百万円増）
札幌信用金庫	189 百万円（189 百万円増）

2. 株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 1,600,000 株
 (2) 発行済株式の総数 1,040,000 株
 (3) 当事業年度末の株主数 52 名
 (4) 大株主

(発行済株式の総数に対するその有する株式の割合が高いことにおいて上位となる十名の株主)

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
札幌市	246,000 株	23.65%
札幌商工会議所	105,400	10.13
株式会社日本政策投資銀行	100,000	9.62
北海道	60,000	5.77
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)（信託口4）	60,000	5.77
株式会社北洋銀行	52,000	5.00
大成建設株式会社	36,000	3.46
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	31,500	3.03
株式会社みずほ銀行	30,000	2.88
株式会社札幌丸井三越	28,300	2.72

3. 会社役員に関する事項

会社における地位	氏名	担当及び他の法人等の代表状況
代表取締役社長	小澤 敏美	
専務取締役	森 裕 傑	
常務取締役	松岡 正治	
常務取締役	坂上 修二	
常務取締役	西村 茂樹	
取締役	鈴木 保雄	施設部長
取締役	明 道 進	(株)ほくせん取締役会長
取締役	光地 勇一	札幌中央アーバン(株)代表取締役社長
取締役	荒木 啓文	札幌商工会議所専務理事

取	締	役	渡 邊 光 春	札幌市経済局長
取	締	役	北 村 潤 一 郎	(株)日本政策投資銀行北海道支店長
監	査	役	脇 千 春	北海道電力(株)常任監査役
監	査	役	小 林 良 輔	(株)北洋銀行常務執行役員公務金融部長
監	査	役	辻 清 宏	栄光税理士法人代表社員税理士

(注) 1. 当事業年度中における取締役の異動は次のとおりであります。

平成 24 年 6 月 27 日開催の第 43 期定時株主総会決議における異動

新 任 取締役 小澤 敏美

退 任 取締役 佐藤 幹

2. 取締役 明道進氏、光地勇一氏、荒木啓文氏、渡邊光春氏、および北村潤一郎氏は、会社法第 2 条第 15 号に定める社外取締役であります。

3. 監査役 脇千春氏、小林良輔氏、および辻清宏氏は、会社法第 2 条第 16 号に定める社外監査役であります。

4. 会計監査人の状況

名 称 新日本有限責任監査法人

5. 内部統制についての取締役会決議の状況

業務の適正を確保するための体制等の整備について、取締役会で決議した内容の概要は次のとおりであります。

(1) 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

法令遵守については、コンプライアンスに関する規範体系を明確にするとともに、組織体制として役職員の役割を定め、体制の確立を図ります。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

役職員の職務の執行に係る情報については、その保存媒体に応じ、遺漏無きよう十分に注意をもって保存・管理に努めます。

(3) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

統一的なリスク管理体制確立のため、職務の執行に伴うリスクカテゴリーを分類・整備し、効果的な予防と混乱無き対処を目指します。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

役職員の職務の執行が適切かつ効率的に行われる体制づくりとして、「定例役員会要領」など諸規定を整備し運用しております。

(5) 監査役がその職務を補助すべき使用人（補助使用人）を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社企業規模並びに業務ボリュームから、原則として専属のスタッフは配置せず、総務部担当者が必要に応じ、監査役スタッフ業務を兼務するものとします。

(6) 補助使用人の取締役からの独立性に関する事項

その担当者の指名や業務内容、期間等について事前に取締役と監査役が意見交換を行うものとします。

(7) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

全ての役職員は、当社に著しい損害を及ぼす虞や事実の発生、信用を著しく失墜させる事態、内部管理の体制・手続等に関する重大な欠陥や問題、法令違反等の不正行為や重大な不当行為等について知り得たときには、法令に従い速やかに監査役に報告するものとします。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換など連携を維持するものとします。

貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
【流動資産】	【 950,762 】	【流動負債】	【 1,402,612 】
現金及び預金	791,793	短期借入金	605,500
未収入金	28,527	1年内返済長期借入金	13,620
有価証券	29,999	1年内返済保証金	7,584
商品	700	未払金(総務部)	71,067
繰延税金資産	53,685	未払金(営業部)	7,364
その他流動資産	46,055	未払金(施設部)	422,127
【固定資産】	【 5,980,864 】	未払法人税等	26,984
(有形固定資産)	3,604,871	未払費用	212
建物	3,197,082	前受金	106,241
構築物	9,666	預り金	31,902
器具備品	118,399	賞与引当金	10,007
土地	4,500	修繕引当金	100,000
リース資産	197,497	【固定負債】	【 2,116,834 】
建設仮勘定	77,725	長期借入金	227,880
(無形固定資産)	595,163	受入保証金	477,775
電話加入権	1,693	受入敷金	1,215,258
施設利用権	591,068	退職給付引当金	26,917
リース資産	2,401	長期未払金	168,047
(投資その他の資産)	1,780,829	資産除去債務	956
投資有価証券	601,425	負債の部合計	3,519,447
差入保証金	15,299	純資産の部	
保証金返還積立金	1,141,947	【株主資本】	【 3,412,179 】
長期前払費用	8,035	(資本金)	520,000
長期繰延税金資産	13,951	資本金	520,000
その他	170	(利益剰余金)	2,892,179
		利益準備金	130,000
		別途積立金	2,418,800
		繰越利益剰余金	343,379
		純資産の部合計	3,412,179
資産合計	6,931,626	負債・純資産合計	6,931,626

損 益 計 算 書

自 平成 24年 4月 1日

至 平成 25年 3月 31日

科 目	金 額	
		千円
【 売 上 高 】		1,900,125
【 売 上 原 価 】		1,528,735
売 上 総 利 益		371,390
【販売費及び一般管理費】		209,153
営 業 利 益		162,236
【 営 業 外 収 益 】		
受取利息・配当金	5,968	
雑 収 入	11,805	17,773
【 営 業 外 費 用 】		
支 払 利 息	4,002	
雑 損 失	0	4,002
経 常 利 益		176,007
【 特 別 損 失 】		
固定資産除却損	51,510	51,510
税引前当期純利益		124,496
法人税、住民税及び事業税		50,211
法 人 税 等 調 整 額		960
当 期 純 利 益		73,324

株主資本等変動計算書

(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						純資産 合計
	資本金	利益剰余金				株主資本 合計	
		利益 準備金	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計		
			別 途 積立金	繰越利益 剰余金			
平成24年4月1日 残高	520,000	130,000	2,418,800	301,255	2,850,055	3,370,055	3,370,055
当期変動額							
剰余金の 配当				△ 31,200	△ 31,200	△ 31,200	△ 31,200
当期純利益				73,324	73,324	73,324	73,324
当期変動額 合計				42,124	42,124	42,124	42,124
平成25年3月31日 残高	520,000	130,000	2,418,800	343,379	2,892,179	3,412,179	3,412,179

個 別 注 記 表

1. 記載金額については、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券 ・ ・ ・ 償却原価法

その他有価証券

時価のないもの ・ ・ ・ 総平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商 品 ・ ・ ・ 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

(3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産（リース資産を除く） ・ ・ ・ 定額法を採用しております。ただし、平成19年3月31日以前に取得したものについては、旧定額法を採用しております。なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却しております。

無形固定資産（リース資産を除く） ・ ・ ・ 定額法によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産 ・ ・ ・ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

賞 与 引 当 金 ・ ・ ・ 従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

修 繕 引 当 金 ・ ・ ・ 固定資産の周期的な修繕に備えるため、過去の実績を勘案して計上しております。

退 職 給 付 引 当 金 ・ ・ ・ 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(6) 消費税等の会計処理は税抜処理によっております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

①担保に供している資産

建 物	3,196,389千円
構 築 物	9,666千円
定 期 預 金	1,852千円
計	3,207,907千円

②担保に係る債務

1年内返済長期借入金	13,620千円
長 期 借 入 金	227,880千円
計	241,500千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 9,075,375千円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度の末日における発行済株式の総数（普通株式） 1,040,000株

(2) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

平成24年6月27日の第43期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	31,200千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	30円
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月28日

(3) 当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

平成25年6月21日の第44期定時株主総会において、次の議案を付議いたします。

配当金の総額	31,200千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	30円
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月24日

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生のおもな内容は、修繕引当金、退職給付引当金の否認等であります。

6. リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

資金運用については、元本の回収確実性を最重視し、かつ常識的な運用益が得られるような商品で運用しております。また満期設定のある金融商品は、原則としてその満期日もしくは償還日まで保有するものとし、金融機関の選定についても信用面に留意しつつ、安全性の確保に努めております。

有価証券及び投資有価証券は主として公社債等の債券であり、半期ごとに時価把握を行っております。

借入金の使途は設備投資資金（長期）であり、いずれも固定金利の証書貸付であります。なお、デリバティブ取引は実施しておりません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

当当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりです。

(単位:千円)

	貸借対照表 計上額 (*)	時 価 (*)	差 額
(1) 現金及び預金	791,793	791,793	-
(2) 有価証券	29,999	30,150	151
(3) 投資有価証券 満期保有目的債券	600,615	608,610	7,995
(4) 保証金返還積立金	30,000	29,999	-1
(5) 短期借入金	(605,500)	(605,500)	-
(6) 未払金	(500,559)	(500,559)	-
(7) 長期借入金（一年内返済分を含む）	(241,500)	(250,190)	8,690

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券、並びに (3) 投資有価証券

証券会社等、各取扱金融機関の開示する時価情報によっております。

(4) 保証金返還積立金

保証金返還積立金（貸借対照表計上額は、1,141,947千円）については、主としてテナントからの預り金（保証金及び敷金）を銀行預金で運用しております。そのうち当事業年度末から起算して満期まで1年を超える1件について、期間に基づく区分ごとに、新規に預金を行った場合に想定される預金金利で割り引いた現在価値を算定する方法によっております。

(5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、上記金額は、未払金（総務部）、未払金（営業部）、未払金（施設部）の合計となっております。

(7) 長期借入金（一年内返済分を含む）

借入金については、元利金の合計額をリスクフリーレートにスプレッドを加算して算出する利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 非上場株式（貸借対照表計上額は、810千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と考えられるため、「(3) 投資有価証券」には記載しておりません。

(注3) 一年内返済保証金（貸借対照表計上額は、7,584千円）及び受入保証金（貸借対照表計上額は、477,775千円）、受入敷金（貸借対照表計上額は、1,215,258千円）は、退去時期が未定であり、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と考えられるため、上記の表には記載しておりません。

8. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では札幌市内において、地下商業施設として賃貸用不動産を有しております。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：千円)

貸借対照表計上額	時価
3,766,101	5,344,838

(注1) 貸借対照表計上額は、有形固定資産に計上されている建物（建物附属設備を含む。）、構築物並びに無形固定資産に計上されている施設利用権のうち、賃貸の用に供される部分の取得原価から減価償却累計額を控除した額であります。

(注2) 当事業年度末における時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて不動産鑑定事務所が算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 3,280円94銭

(2) 1株当たり当期純利益 70円50銭

10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。